

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I	指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義: ○	演習:	実習: 実技:
年間時間数	28 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	SUCCESS		
授業外学習の方法	教科書復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究 I	指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義: ○	演習:	実習: 実技:
年間時間数	28 時間		週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	SUCCESS		
授業外学習の方法	教科書復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り
	2	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り
	3	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート
	4	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状
	5	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書
	6	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成
	7	企業訪問	5-1.5-2
	8	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室
	9	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1
	10	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2
	11	筆記試験対策 1	5-5.5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る
	12	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)
	13	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)
	14	期末試験(履歴書)	履歴書提出
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミ I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	14	期末試験	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミ I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。
	13	特別授業1	年度末最後の選択授業を2回で実施する。
	14	特別授業2	年度末最後の選択授業を2回で実施する。最終レポート提出。
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	動画制作演習 I Ⅰ		指導担当者名	鈴木 良明
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン カメラ			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れについて	
	2	動画とは	動画についての基礎知識習得	
	3	動画の作成方法について	作成方法と使用ソフトについての説明	
	4	グループ分け	動画制作グループ分け	
	5	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作	
	6	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作	
	7	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作	
	8	撮影①	企画を元にした動画撮影	
	9	撮影②	企画を元にした動画撮影	
	10	撮影③	企画を元にした動画撮影	
	11	編集①	撮影した動画の編集	
	12	編集②	撮影した動画の編集	
	13	編集③	撮影した動画の編集	
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	動画制作演習Ⅰ		指導担当者名	鈴木 良明
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン カメラ			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	前期振り返り		
	2	仕事をする上での動画とは	仕事上で気を付けることを考える	
	3	依頼の受け方	依頼を受ける方法について	
	4	グループ分け	動画制作グループ分け	
	5	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作	
	6	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作	
	7	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作	
	8	撮影①	企画を元にした動画撮影	
	9	撮影②	企画を元にした動画撮影	
	10	撮影③	企画を元にした動画撮影	
	11	編集①	撮影した動画の編集	
	12	編集②	撮影した動画の編集	
	13	編集③	撮影した動画の編集	
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルソフト実習 I		指導担当者名	藤岡 阿比努
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	コミックイラスト科1年、マンガクリエイト科1年、グラフィックデザイン科1年、動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する(12月実施予定) ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定) 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Macintosh PC, IllustratorクイックマスターCC (Win/Mac) 対応, PhotoshopクイックマスターCC (Win/Mac) 対応			
授業外学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを使つての事前予習 ・テキストを使つての実技練習 			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識/インターフェース・ツール・パネル	
	2	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基礎知識/アートワーク・アートボードナビゲーター・ガイド・環境設定	
	3	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/オブジェクトの設定と描画	
	4	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/編集操作(CP・前後関係・グループ化・移動)	
	5	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/カラー設定・レイヤーオブジェクトの組み合わせ	
	6	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/文字の作成・文字関連の機能	
	7	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの基本操作/パスの基本的な描画と編集	
	8	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/線とアピアランス	
	9	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/レイアウトの補助機能	
	10	Illustrator検定対策(スタンダード)	クイックマスターIllustratorの応用操作/グラデーション・スウォッチ・パターン	
	11	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説	
	12	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説	
	13	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施	
	14	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルソフト実習 I	指導担当者名	藤岡 阿比努
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	コミックイラスト科1年、マンガクリエイト科1年、グラフィックデザイン科1年、動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルにおけるイラスト表現の基礎を習得する ・フォトショップ、イラストレーターの使用技術の習得 ・フォトショップ検定初級を取得する(12月実施予定) ・イラストレーター検定初級を取得する(8月実施予定) 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績表かは、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段かとする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	Machintosh PC, Illustrator クイックマスターCC (Win/Mac) 対応, Photoshop クイックマスターCC (Win/Mac) 対応		
授業外学習の方法	・テキストを使っての事前予習 ・テキストを使っての実技練習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基礎知識/インターフェース・ドキュメントウィンドウ・ツール・パネル
	2	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基礎知識/画面表示・色の選択・環境設定
	3	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作/選択ツール・範囲の読み込み
	4	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作/画像解像度とサイズトリミング
	5	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作/変形・カラーモード色調補正
	6	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作/ペイント・レタッチ・レイヤーの操作
	7	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの基本操作/パス・切抜・シェイプ・フィルター・テキストの入力について
	8	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作/コンテンツ制作・ロゴ制作/カスタムシェイプ
	9	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作/コンテンツ制作・フォトカード/アクション
	10	Photoshop検定対策(スタンダード)	クイックマスターPhotoshopの応用操作/Webページの制作
	11	過去問題	スタンダード模擬問題-1 解説
	12	過去問題	スタンダード模擬問題-2 解説
	13	前期期末試験	実際の試験同様の時間で知識と実技試験の実施
	14	期末試験フィードバック	検定試験前の最終確認授業
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	Blender演習	指導担当者名	橋本若菜
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	84 時間	週時間数	3 時間
学習到達目標	<p>〈通年〉DCCツールであるBlenderの基本を習得し、ローポリゴンモデリング、アニメーション、実写合成ができるようになることを目標とする。</p> <p>〈前期〉Blenderに慣れる、モデリングのワークフローを学習し、基本的なモデルが制作できるようになることを目標とする。</p> <p>〈後期〉制作したモデルのアニメーション、実写映像と合成ができるようになることを目標とする。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	・Blender・AdobeCC Photoshop・webの画像		
授業外学習の方法	自宅での実習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーションMaya初期設定 & 操作説明【制作】ステージレイアウト	・講師紹介、授業内容等の説明・プリファンス、UI、ディスプレイ設定
	2	Blenderの基本操作	・オブジェクト作成・基本的なツールの習得1
	3	プリミティブモデリング	・基本的なツールの習得2
	4	CSGモデリング	・基本的なツールの習得3・マテリアル設定
	5	レイアウト	・ポージング(ペARENT化、ピボットの移動など)・ライティング、Eeveeレンダリング
	6	UV展開テクスチャマッピング	以降授業では、AdobeCC Photoshop、ペンタブレットを使用・UV展開:平面マッピング
	7	3Dテクスチャペイントガラス、金属の質感	・UV展開(境目の処理)・BSDFシェーダで金属・ガラスの質感を学習
	8	ローポリゴンモデリング	・参考資料、イメージ画像の収集について
	9	UV展開	・UV展開:円柱マッピング
	10	資料集め	・アンティーク調モデリング(ティーカップ、洋書、古鍵、机など)
	11	実制作	・モデリング
	12	レイアウト	・レイアウト
	13	ライティング	・ライティング
	14	【前期期末制作】	Cyclesレンダリング
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	Blender演習	指導担当者名	橋本若菜
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	84 時間	週時間数	3 時間
学習到達目標	<p>〈通年〉DCCツールであるBlenderの基本を習得し、ローポリゴンモデリング、アニメーション、実写合成ができるようになることを目標とする。</p> <p>〈前期〉Blenderに慣れる、モデリングのワークフローを学習し、基本的なモデルが制作できるようになることを目標とする。</p> <p>〈後期〉制作したモデルのアニメーション、実写映像と合成ができるようになることを目標とする。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	・Blender・AdobeCC Photoshop・webの画像		
授業外学習の方法	自宅での実習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	前期の復習	前期で学習した内容の確認
	2	キーフレームアニメーション①	キーフレームアニメーションについて、アニメーション設定
	3	キーフレームアニメーション②	移動・回転・スケールアニメーション
	4	キーフレームアニメーション③	ボールのアニメーション
	5	レンダリング	アニメーションのレンダリング
	6	実写合成	マッチムーブ機能について
	7	実写合成	シーン作成
	8	実写合成	マテリアル設定、ライティング
	9	実写合成	レンダリング
	10	【前期期末制作】	素材の撮影、マッチムーブ
	11	シーン作成	モデリング
	12	アニメーション	制作したモデルのアニメーション
	13	レンダリング	Cyclesレンダリング
	14	期末提出	課題提出
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	動画プランニング演習	指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	有	フリーで5年の映像編集を行っている	
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	84ターム 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動画配信における基礎的な知識の習得 ・発想力、プランニング力の向上 ・基本的な動画編集力の取得 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・Machintosh PC ・Adobe Premiere Pro 		
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で動画やインフルエンサーのリサーチ		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	企画の基礎	企画(プランニング)の必要性
	3	企画の基礎	企画書の基礎的な制作方法
	4	企画の基礎	コンセプトや制作意図について
	5	企画の基礎	設定したターゲットにあった規格の重要性
	6	企画の基礎	現在の流行、需要のリサーチ(年齢、性別指定)
	7	企画の基礎	自分と他人の価値観のギャップ
	8	企画の基礎	現状の基本的な企画スタンス(既存+α or 新しいもの)
	9	企画の基礎	統一性を持たせる意味(ブランディング)
	10	後期に向けた企画制作	後期に制作する映像の企画書制作
	11	後期に向けた企画制作	後期に制作する映像の企画書制作
	12	後期に向けた企画制作	後期に制作する映像の企画書制作
	13	前期期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	動画プランニング演習	指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	有	フリーで5年の映像編集を行っている	
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動画配信における基礎的な知識の習得 ・発想力、プランニング力の向上 ・基本的な動画編集力の取得 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・Machintosh PC ・Adobe Premiere Pro 		
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で動画やインフルエンサーのサーチ		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の種類の説明
	2	映像について	興味を持つきっかけ(サムネイル等)
	3	映像について	人間の集中力の持続と映像の関連性
	4	映像についての確認	学習した映像の知識の確認と企画への落とし込む重要性
	5	Premiere proの使い方	データの作成方法と書き出し
	6	Premiere proの使い方	カット、文字入れ、音入れ
	7	Premiere proの使い方	機能の使用方法(基本的なエフェクト)
	8	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削
	9	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削
	10	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削
	11	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削
	12	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削
	13	後期期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	後期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	メディアリテラシー概論	指導担当者名	松岡純代
実務経験	有	制作会社、フリーカメラマンとして写真撮影業務に10年間従事し、現在も活躍中	
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	28 時間		週時間数 1 時間
学習到達目標	前期のポイント(以下の力を身に付ける) ・情報モラル ・メディアに対する自己コントロール力 ・情報をうのみにせず主体的批判的に受け取る力		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。		
使用教材	Machintosh PC、ノート、筆記用具		
授業外学習の方法	・メディアに触れること		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	授業の説明	進め方、概要
	2	メディアリテラシーを考える	メディアリテラシーの意味
	3	メディアを知る	メディアの種類
	4	SNSを知る	SNSを使用する上での注意点
	5	SNSトラブル	SNSトラブルの対処法、ポイント
	6	ネット犯罪	加害者・被害者にならないために①
	7	ネットストーカー	加害者・被害者にならないために②
	8	アンガーマネジメント	自己マインドのコントロールについて
	9	ネットニュース	ネットニュースの仕組み
	10	フェイクニュース	文章の編集、画像・動画の編集、切り取りについて
	11	ネット広告	ネット広告の仕組み
	12	期末試験準備	試験範囲発表
	13	前期期末試験	期末試験
	14	前期振り返り	前期振り返り
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	メディアリテラシー概論	指導担当者名	松岡純代
実務経験	有	制作会社、フリーカメラマンとして写真撮影業務に10年間従事し、現在も活躍中	
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	28 時間		週時間数 1 時間
学習到達目標	<p>前期のポイント(以下の力を身に付ける)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル ・メディアに対する自己コントロール力 ・情報をうのみにせず主体的批判的に受け取る力 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	Machintosh PC、ノート、筆記用具		
授業外学習の方法	・メディアに触れること		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	SNSマーケティング	SNSマーケティングの説明
	2	SNSマーケティング	バズらせるための考察
	3	情報発信をしてみよう	記事を書くコツと注意点
	4	情報発信をしてみよう	記事を読んで分析しよう
	5	SNSを分析してみよう	アカウント分析
	6	SNSを分析してみよう	インサイト
	7	SNSを分析してみよう	マーケティング
	8	JARO	景品表示法について
	9	JARO	優良誤認
	10	JARO	有利誤認
	11	JARO	薬機法
	12	期末試験準備	試験範囲発表
	13	後期期末試験	期末試験
	14	年間の講評	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論 I	指導担当者名	志村早織
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	色彩概論テキスト		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業趣旨説明、簡単な実習
	2	確認テスト番号	教科書、問題集PCCS
	3	確認テスト色のはたらきについて	教科書、問題集色のはたらき、色とイメージ
	4	確認テスト光と色	教科書、問題集色はなぜ見えるのか、目のしくみ
	5	確認テスト混色	教科書、問題集照明と色の見え方、加法混色、減法混色
	6	確認テスト色の分類と三属性	教科書、問題集色の三属性、等色相面
	7	確認テストPCCS色相	教科書、問題集色相、明度、彩度、トーンのイメージ
	8	確認テストトーン記号	教科書、問題集色相とトーンによる色の表示方法
	9	確認テスト慣用色名①	教科書、問題集慣用色名、暖色と寒色
	10	確認テスト色彩心理	教科書、問題集進出色と後退色、膨張色と収縮色
	11	確認テスト色対比と錯視	教科書、問題集色対比、同化効果、色陰現象、色の錯視
	12	確認テスト色彩調和	教科書、問題集配色、色相から配色を考える
	13	確認テスト色彩効果	教科書、問題集配色技法、色彩と構成
	14	レポート作成	まとめ
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	色彩概論 I	指導担当者名	志村早織
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	色彩検定3級合格を目指す		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	色彩概論テキスト		
授業外学習の方法	各授業実施前後の予習と復習の徹底をする		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	確認テスト授業説明	教科書、問題集
	2	確認テスト色彩と生活	教科書、問題集生活環境と色彩、生活環境とカラーコーディネーション
	3	確認テストファッションと色彩	教科書、問題集ファッションとは、ファッションコーディネートにおける色彩、基本的なカラーコーディネート
	4	確認テストインテリアと色彩	教科書、問題集インテリアとは、住宅インテリアの色彩
	5	確認テストインテリアのカラーコーディネーション	教科書、問題集インテリアのカラーコーディネーション、インテリアにおける色の心理的効果
	6	確認テストコーポレートカラー	教科書、問題集インテリアの配色、インテリアにおける色彩検討、コーポレートカラー
	7	確認テスト慣用色名②	教科書、問題集慣用句名説明
	8	確認テスト過去問題	2017夏解答と解説
	9	確認テスト過去問題	2017冬解答と解説
	10	確認テスト過去問題	2018夏解答と解説
	11	確認テスト過去問題	2018冬解答と解説
	12	確認テスト過去問題	2019夏解答と解説
	13	色彩検定2級についての説明	次年度概要説明
	14	レポート作成	まとめ
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	映像制作概論Ⅰ□		指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	動画映像制作ハンドブック			
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	プリプロ-映像制作のながれ	映像制作の流れをチャートに沿って学習する	
	2	プリプロ-企画、オリエンテーション	映像制作における企画、オリエンテーションとは何かを実際の収録までの作業詳細に沿って理解する。	
	3	プリプロ-シナリオ表現、コンテ	映像制作におけるシナリオ表現の考え方を学び、コンテに落とし込む	
	4	撮影-レンズの特性	レンズの特性についての知識を学ぶ	
	5	撮影-画面サイズ、カメラワーク	画面サイズと呼称、カメラワークの用語について学ぶ	
	6	撮影-撮影機材、撮影の実際	撮影機材の種類、用途と役割、実際の撮影の流れを学ぶ	
	7	照明-照明の役割、色彩表現~照度と色彩	照明の役割、色彩表現の知識を学ぶ	
	8	照明-ライト・ポジション、照明機材	ライトポジション、照明機材の名称・用途を学ぶ	
	9	照明-人物照明、その他	人物照明における3灯照明の基本と応用について、その他の照明についての知識を学ぶ	
	10	素材制作-コンピューター・グラフィックス	映像制作における素材、データ形式に関する知識を学ぶ	
	11	素材制作-2DCG・3DCG、画像合成	2DCG、3DCG、画像合成に関する用語とその意味を学ぶ	
	12	素材制作-音素材、音素材制作	映像制作における音素材に関する知識を学ぶ	
	13	前期期末試験	プリプロ~素材制作までの知識試験	
	14	前期振り返り	前期の振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	映像制作概論 I □	指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	動画映像制作ハンドブック		
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	録音-録音の基礎、音声の物理	録音の基礎知識、音源の三要素について、音声の物理についての知識を学ぶ
	2	録音-録音機材	録音機材の名称・用途について学ぶ
	3	録音-スタジオ録音・ロケでの録音	スタジオ録音の実際とロケでの録音の基本的流れを学ぶ
	4	編集-編集とは何か、役割、実際	映像制作における編集とは何か、編集に関する用語やその役割と実際の流れを学ぶ
	5	編集-編集の技法、イマジナリーライン	編集の技法の共通理解知識を学ぶ、イマジナリーラインと180度ルールについて
	6	編集-音によるカッティング・テロップ	音によるカッティングの知識、テロップデザインについて
	7	ポストプロ-ポストプロとは・インターレースとフレームレート	ポストプロダクションについての知識を学ぶ
	8	ポストプロ-モニタリング、カラーコレクション	モニタリング、カラーコレクションの知識を学ぶ
	9	ポストプロ-MA、納品	MultiAudio、納品の流れを学ぶ
	10	関連知識①	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ①
	11	関連知識②	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ②
	12	関連知識③	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ③
	13	後期期末試験	録音～関連知識までの知識試験
	14	後期振り返り	後期の振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究概論 I	指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	28ターム 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	なし		
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	制作物のコンセプトの考え方について	制作物に対するコンセプトの重要性やコンセプトの立て方を理解する。
	3	A&D大学校キャラクタープレゼン	国際A&D大学校のキャラクターデザインをコンセプトから構築する。コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	4	A&D大学校キャラクタープレゼン大きい誌面でも保つキャラクターについて	大きい誌面でも保つてキャラクター・イラスト・デザインに必要なことなど解説。東邦銀行ビッグサマーキャンペーンポスター制作
	5	東邦銀行ビッグサマーキャンペーンデザインプレゼン実務紹介	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施。全建総連福島60周年記念誌制作に伴う、周年記念ロゴの制作
	6	周年記念ロゴのプレゼンインスタプロモーションについて	※得意へ提出可能なデザインにおいては、修正対応してもらい提出までにブラッシュアップを行う。インスタプロモーションPOPの考え方、制作を始めるに当たり必要な情報の集めと決め
	7	父の日POPのプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	8	アイデアを盛り込んだイラストプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	9	インスタプロモーション POP制作(ハロウィン)	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	10	イベントロゴのプレゼン	イベントタイトルロゴを作る※実務実績案件を用いて、タイトル案を提示し、イラストを使用したタイトルロゴを制作する
	11	スノーボード早期販売会チラシデザインプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	12	コンペ制作・ポートフォリオ制作1	ポートフォリオの制作
	13	コンペ制作・ポートフォリオ制作2	ポートフォリオの制作 ブラッシュアップのための添削
	14	まとめ	レポート作成 ブラッシュアップのための添削
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究概論 I	指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	28 時間		週時間数 1 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	なし		
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	制作物のコンセプトの考え方について	制作物に対するコンセプトの重要性やコンセプトの立て方を理解する。
	3	A&D大学校キャラクタープレゼン	国際A&D大学校のキャラクターデザインをコンセプトから構築する。コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	4	A&D大学校キャラクタープレゼン大きい誌面でも保つキャラクターについて	大きい誌面でも保つでキャラクター・イラスト・デザインに必要なことなど解説。東邦銀行ビッグサマーキャンペーンポスター制作
	5	東邦銀行ビッグサマーキャンペーンデザインプレゼン実務紹介	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施。全建総運福島60周年記念誌制作に伴う、周年記念ロゴの制作
	6	周年記念ロゴのプレゼンインスタプロモーションについて	詳細な提出可能なデザインにおいては、修正対応してもらい提出までにブラッシュアップを行う。インスタプロモーション・POPの考え方、制作を始めるに当たり必要な情報の集め方
	7	父の日POPのプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	8	アイデアを盛り込んだイラストプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	9	インスタプロモーション POP制作<ハロウィン>	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	10	イベントロゴのプレゼン	イベントタイトルロゴを作る※実務実績案件を用いて、タイトル案を提示し、イラストを使用しタイトルロゴを制作する
	11	スノーボード早期販売会チラシデザインプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	12	コンペ制作・ポートフォリオ制作1	ポートフォリオの制作
	13	コンペ制作・ポートフォリオ制作2	ポートフォリオの制作 ブラッシュアップのための添削
	14	まとめ	レポート作成 ブラッシュアップのための添削
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習 I 口	指導担当者名	パクスフン
実務経験	有	音響、配信業務経歴20年以上	
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年口
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。口 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。		
使用教材	パソコン カメラ ATEM口		
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る口		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	動画とは	動画の画角等
	2	動画を作ってみよう	premiere proを使用した動画制作
	3	動画を作ってみる2	premiere proを使用動画の書き出し方法
	4	配信	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。
	5	配信	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。
	6	配信	youtubeの設定と配信
	7	配信	配信に必要なブロック図と配線の書き方
	8	配信イベント	配信イベント行ってみる
	9	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る
	10	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る
	11	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る
	12	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る
	13	期末試験	
	14	振り返り	
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習 I 〇	指導担当者名	パクスフン
実務経験	有	音響、配信業務経歴20年以上	
開講時期	通年	対象学科学年	音響・ミュージック科2年〇
授業方法	講義:	演習:	実習: 〇 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。〇 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。		
使用教材	パソコン カメラ ATEM〇		
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る〇		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	前期振り返り	
	2	配信のためのプランニング	配信時間を考える
	3	タイムコード	音声と映像を合わせる
	4	配信企画	配信の企画を立てる
	5	配信必要な素材	配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる
	6	良い音で配信するためには？	配信での良い音する方法
	7	音楽以外の配信プラン	朗読劇での配信
	8	音楽以外の配信プラン	e-Sportsでの配信
	9	音楽以外の配信プラン	演劇での配信
	10	校内ライブで配信するためのプラン	配信プランを立ててみる
	11	校内ライブで配信するためのプラン	実際に配信を試してみる
	12	校内ライブで配信するためのプラン	弾き語りの配信を試してみる
	13	期末試験	
	14	振り返り	
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習 I □	指導担当者名	佐藤嶺
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している	
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年、グラフィック系学科2年□
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro		
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	動画とは	授業の流れについて
	2	動画を作ってみよう	動画についての基礎知識習得
	3	動画を作ってみる2	作成方法と使用ソフトについての説明
	4	配信	動画制作グループ分け
	5	配信	グループに分かれての動画企画制作
	6	配信	グループに分かれての動画企画制作
	7	配信	グループに分かれての動画企画制作
	8	配信イベント	企画を元にした動画撮影
	9	配信用のCMを作ってみる	企画を元にした動画撮影
	10	配信用のCMを作ってみる	企画を元にした動画撮影
	11	配信用のCMを作ってみる	撮影した動画の編集
	12	配信用のCMを作ってみる	撮影した動画の編集
	13	期末試験	
	14	振り返り	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習 I □	指導担当者名	佐藤 嶺
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している	
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年、グラフィック系学科1,2年□
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro		
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	前期振り返り	
	2	配信のためのプランニング	仕事上で気を付けることを考える
	3	タイムコード	依頼を受ける方法について
	4	配信企画	動画制作グループ分け
	5	配信必要な素材	グループに分かれての動画企画制作
	6	良い音で配信するためには?	グループに分かれての動画企画制作
	7	音楽以外の配信プラン	グループに分かれての動画企画制作
	8	音楽以外の配信プラン	企画を元にした動画撮影
	9	音楽以外の配信プラン	企画を元にした動画撮影
	10	校内ライブで配信するたのプラン	企画を元にした動画撮影
	11	校内ライブで配信するたのプラン	撮影した動画の編集
	12	校内ライブで配信するたのプラン	撮影した動画の編集
	13	期末試験	
	14	振り返り	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション演習	指導担当者名	佐藤 美希子
実務経験	無		
開講時期	前期	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	28 時間		週時間数 時間
学習到達目標	サーティファイ コミュニケーション検定初級の取得、ロールプレイングを通してコミュニケーション力の向上を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	コミュニケーション検定初級 テキスト		
授業外学習の方法	テキストを使用し、過去問題を回答する		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明
	2	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	1-1コミュニケーションを考える、2-1目的に即して聞く
	3	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	2-2傾聴・質問する
	4	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-1目的を意識する
	5	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-2話を組み立てる
	6	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-3言葉を選び抜く
	7	パート1 コミュニケーションセオリー(理論)	3-4表現伝達する
	8	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-1来客対応、1-2電話対応
	9	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-3アポイントメント・訪問・挨拶、1-4情報共有の重要性
	10	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	1-5チームコミュニケーション
	11	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-1接客営業、2-2クレーム対応
	12	パート2 コミュニケーションプラクティス(実践)	2-3会議・取材・ヒアリング、2-4面接
	13	検定対策	模擬試験
	14	期末試験	検定本番
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	修了制作 I	指導担当者名	パクスフン
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180 時間	週時間数	時間
学習到達目標	1年生:1年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイヴ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)	
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか	
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ	
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い	
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします	
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解	
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する	
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す	
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)	
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)	
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る	
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)	
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	進路研究Ⅱ		指導担当者名	就職担当職員
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生	
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。 ・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。 ・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	SUCCESS			
授業外学習の方法	教科書復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り	
	2	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り	
	3	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2 エントリーシート	
	4	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2 封筒の書き方、添え状	
	5	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2 その他の書類、履歴書	
	6	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2 履歴書の完成	
	7	企業訪問	5-1,5-2	
	8	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室	
	9	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1	
	10	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	8	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	14	期末試験	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバーゼミⅡ		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	56 時間		週時間数	2 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。 ・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。	
	7	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	8	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	9	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	10	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	11	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	12	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。最終レポート提出。	
	13	特別授業1	年度末最後の選択授業を2回で実施する。	
	14	特別授業2	年度末最後の選択授業を2回で実施する。最終レポート提出。	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	企画運営演習	指導担当者名	矢田部
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動における企画(プランニング)の重要性の理解 ・より柔軟な発想力の向上 ・企画力、プレゼン力の向上 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	PC		
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で企画のリサーチ		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の種類の説明
	3	映像について	興味を持つきっかけ(サムネイル等)
	4	映像について	人間の集中力の持続と映像の関連性
	5	企画について	コンセプトや制作意図について
	6	企画について	設定したターゲットにあった規格の重要性
	7	企画について	現在の流行、需要のリサーチ(年齢、性別指定)
	8	企画について	自分と他人の価値観のギャップ
	9	企画について	現状の基本的な企画スタンス(既存+ α or 新しいもの)
	10	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	11	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	12	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	13	前期期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	企画運営演習	指導担当者名	矢田部
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動における企画(プランニング)の重要性の理解 ・より柔軟な発想力の向上 ・企画力、プレゼン力の向上 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	PC		
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で企画のリサーチ		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	イベントについて	コメント、評価の重要性
	2	イベントについて	続けることの重要性
	3	OBSの使い方	データの作成方法と書き出し
	4	OBSの使い方	カット、文字入れ、音入れ
	5	OBSの使い方	機能の使用方法(フェード等)
	6	OBSの使い方	映像制作のコツを実技を通して説明
	7	OBSの使い方	映像制作のコツを実技を通して説明
	8	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	9	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	10	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	11	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	12	企画書制作	企画書を実際に制作、個別指導・添削
	13	後期期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	後期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルアニメーション実習	指導担当者名	橋本若菜
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	アフターエフェクトの基本を習得し、基本的な合成ができるようになることを目標とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・AdobeCC AfterEffects,Premiere,Photoshop,Illustrator ・Autodesk MAYA 		
授業外学習の方法	自宅での実習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、授業の進行について説明
	2	基礎知識	フレームレート、ピボットポイント
	3	Ps基礎	Photoshopの基本操作、画像処理
	4	Ps,Ai基礎	Photoshopでのマスク制作、Illustratorの基本操作、パスファインダー
	5	AE基礎。画面説明、基本操作	画面説明、基本操作
	6	AE基礎。各種ツール説明	各種ツール説明
	7	AE基礎。テキストツール、キーフレームアニメーション	テキストツール、キーフレームアニメーション
	8	AE基礎。各種パラメーター説明	各種パラメーター説明
	9	カメラ設定	ビューポートの設定
	10	キーフレームアニメーション	基本図形を使ったキーフレームアニメーション
	11	テキストアニメーション	テキストのパラメータを設定しアニメーションさせる。
	12	3Dレイヤー、シャイレイヤ	レイヤーの様々な効果について
	13	タグ付け	レイヤーカラーの割り当て、作業効率アップをさせる。
	14	期末試験	サンプル動画の再現
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	デジタルアニメーション実習	指導担当者名	橋本若菜
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	アフターエフェクトの基本を習得し、基本的な合成ができるようになることを目標とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・AdobeCC AfterEffects,Premiere,Photoshop,Illustrator ・Autodesk MAYA 		
授業外学習の方法	自宅での実習復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	前期復習	基本操作の確認
	2	ラインアニメーション	線のアニメーション
	3	トラッキング	動画から位置情報を吸い出し、別オブジェクトに設定する。
	4	パーティクル	簡単なエフェクト制作。
	5	パペットツール	1枚のイラストからアニメーションを生成する。
	6	エクスプレッション	簡易スクリプトを理解し、プロシージャルなアニメーション制作をする。
	7	実践課題	illustratorの素材をバラバラにしてアニメーションを生成する。
	8	実践課題	実制作
	9	実践課題	発表、提出
	10	チーム制作	テーマ発表、チーム発表、企画開始
	11	絵コンテプレゼン	絵コンテの合評。
	12	制作	アセット制作
	13	編集	コンポジット
	14	期末試験	制作発表、提出。
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	作品制作実習	指導担当者名	パクスフン
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作品数を増やす ・就職活動用のポートフォリオを制作する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	Machintosh PC、Adobeソフト、プリンター、資料配布		
授業外学習の方法	制作物の整理と管理		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	ポートフォリオ解説	ポートフォリオの説明
	2	レイアウトの基礎	名刺を制作、イラストレーターの使い方
	3	レイアウトの基礎	余白、整頓、行間
	4	レイアウトの基礎	フォーマットをトレースする
	5	レイアウトの基礎	フォーマットをトレースする
	6	作品制作	ロゴマークの解説
	7	作品制作	ロゴマーク制作
	8	作品制作	課題発表、発表
	9	レイアウトの基礎	就活用プロフィールを作る
	10	レイアウトの基礎	オリジナルフォーマットを作る
	11	作品制作	試験課題発表
	12	期末試験準備	課題制作
	13	期末試験	課題提出、プレゼンテーション
	14	期末試験フィードバック	課題とプレゼンテーションについて講評
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	作品制作実習	指導担当者名	パクスフン
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作品数を増やす ・就職活動用のポートフォリオを制作する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	Machintosh PC、Adobeソフト、プリンター、資料配布		
授業外学習の方法	制作物の整理と管理		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	ポートフォリオ解説	就活用ポートフォリオ制作とは
	2	就活用ポートフォリオ解説・制作	カテゴリー分けについて
	3	就活用ポートフォリオ解説・制作	レイアウトについて
	4	就活用ポートフォリオ解説・制作	作品の入れ方について
	5	就活用ポートフォリオ解説・制作	フォント・文章について
	6	就活用ポートフォリオ解説・制作	就活用とセルフアピールの違いについて
	7	中間審査	就活用ポートフォリオの提出、進捗確認
	8	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 カテゴリー分けの確認
	9	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 レイアウトの確認
	10	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 バランスの確認
	11	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 レイアウトと整頓の確認
	12	就活用ポートフォリオ制作	個別指導・添削 誤字脱字の確認
	13	期末試験	就活用ポートフォリオの提出、プレゼンテーション
	14	期末試験フィードバック	課題とプレゼンテーションの講評
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習		指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年、声優科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集入門 ・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上 ・1年生:ボイスサンプル制作 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類			
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク～スピーカー音が出るまで	
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存	
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音	
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIFキューベース① 録音	
	5	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1	
	6	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1	
	7	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト	
	8	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト	
	9	ボイスサンプル研究①	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	10	ボイスサンプル研究②	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	11	ボイスサンプル研究③	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	12	ボイスサンプル研究④	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	13	前期期末試験	歌ってみた制作、仮想CM制作	
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習		指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年、声優科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音響機材セッティング/音声収録ができる ・パソコンでのオーディオデータ編集入門 ・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上 ・1年生:ボイスサンプル制作 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類			
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後 期	1	音響制作①	舞台音響制作体験①	
	2	音響制作②	舞台音響制作体験②	
	3	作品制作①	ボイスラジオドラマ制作 企画	
	4	作品制作②	ボイスラジオドラマ制作 企画	
	5	作品制作③	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング	
	6	作品制作④	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング	
	7	作品制作⑤	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	8	作品制作⑥	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	9	作品制作⑦	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	10	作品制作⑧	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	11	作品制作⑨	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	12	作品制作⑩	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	13	後期末試験	ボイスドラマ完パケ	
	14	後期振り返り	舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習Ⅱ <input type="checkbox"/>	指導担当者名	パクスフン
実務経験	有 <input type="checkbox"/>	音響、配信業務経歴20年以上	
開講時期	通年 <input type="checkbox"/>	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年 <input type="checkbox"/>
授業方法	講義: <input type="checkbox"/>	演習: <input type="checkbox"/>	実習: <input type="radio"/> 実技: <input type="checkbox"/>
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。		
使用教材	パソコン カメラ ATEM <input type="checkbox"/>		
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る <input type="checkbox"/>		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	動画とは	動画の画角等
	2	動画を作ってみよう	premiere proを使用した動画制作
	3	動画を作ってみる2	premiere proを使用動画の書き出し方法
	4	配信	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。
	5	配信	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。
	6	配信	youtubeの設定と配信
	7	配信	配信に必要なブロック図と配線の書き方
	8	配信イベント	配信イベント行ってみる
	9	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る
	10	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る
	11	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る
	12	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る
	13	期末試験	
	14	振り返り	
履修上の留意点			
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習Ⅱ□	指導担当者名	パクスフン
実務経験	有	音響、配信業務経歴20年以上	
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年□
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。□ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。		
使用教材	パソコン カメラ ATEM□		
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る□		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	前期振り返り	
	2	配信のためのプランニング	配信時間を考える
	3	タイムコード	音声と映像を合わせる
	4	配信企画	配信の企画を立てる
	5	配信必要な素材	配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる
	6	良い音で配信するためには?	配信での良い音する方法
	7	音楽以外の配信プラン	朗読劇での配信
	8	音楽以外の配信プラン	e-Sportsでの配信
	9	音楽以外の配信プラン	演劇での配信
	10	校内ライブで配信するたのプラン	配信プランを立ててみる
	11	校内ライブで配信するたのプラン	実際に配信をしてみる
	12	校内ライブで配信するたのプラン	弾き語りの配信をしてみる
	13	期末試験	
	14	振り返り	
履修上の留意点			
・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	動画制作演習Ⅱ	指導担当者名	鈴木 良明
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事	
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	パソコン カメラ		
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れについて
	2	動画とは	動画についての基礎知識習得
	3	動画の作成方法について	作成方法と使用ソフトについての説明
	4	グループ分け	動画制作グループ分け
	5	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作
	6	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作
	7	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作
	8	撮影①	企画を元にした動画撮影
	9	撮影②	企画を元にした動画撮影
	10	撮影③	企画を元にした動画撮影
	11	編集①	撮影した動画の編集
	12	編集②	撮影した動画の編集
	13	編集③	撮影した動画の編集
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	動画制作演習Ⅱ	指導担当者名	鈴木 良明
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事	
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数 3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	パソコン カメラ		
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	前期振り返り	
	2	仕事をすすめるための動画とは	仕事上で気を付けることを考える
	3	依頼の受け方	依頼を受ける方法について
	4	グループ分け	動画制作グループ分け
	5	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作
	6	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作
	7	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作
	8	撮影①	企画を元にした動画撮影
	9	撮影②	企画を元にした動画撮影
	10	撮影③	企画を元にした動画撮影
	11	編集①	撮影した動画の編集
	12	編集②	撮影した動画の編集
	13	編集③	撮影した動画の編集
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	映像制作概論Ⅱ	指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	56 時間		週時間数 2 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	動画映像制作ハンドブック		
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	プリプロ-映像制作のながれ	映像制作の流れをチャートに沿って学習する
	2	プリプロ-企画、オリエンテーション	映像制作における企画、オリエンテーションとは何かを実際の収録までの作業詳細に沿って理解する。
	3	プリプロ-シナリオ表現、コンテ	映像制作におけるシナリオ表現の考え方を学び、コンテに落とし込む
	4	撮影-レンズの特性	レンズの特性についての知識を学ぶ
	5	撮影-画面サイズ、カメラワーク	画面サイズと呼称、カメラワークの用語について学ぶ
	6	撮影-撮影機材、撮影の実際	撮影機材の種類、用途と役割、実際の撮影の流れを学ぶ
	7	照明-照明の役割、色彩表現～照度と色彩	照明の役割、色彩表現の知識を学ぶ
	8	照明-ライト・ポジション、照明機材	ライトポジション、照明機材の名称・用途を学ぶ
	9	照明-人物照明、その他	人物照明における3灯照明の基本と応用について、その他の照明についての知識を学ぶ
	10	素材制作-コンピューター・グラフィックス	映像制作における素材、データ形式に関する知識を学ぶ
	11	素材制作-2DCG・3DCG、画像合成	2DCG、3DCG、画像合成に関する用語とその意味を学ぶ
	12	素材制作-音素材、音素材制作	映像制作における音素材に関する知識を学ぶ
	13	前期期末試験	プリプロ～素材制作までの知識試験
	14	前期振り返り	前期の振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	映像制作概論Ⅱ	指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	56 時間	週時間数	2 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	動画映像制作ハンドブック		
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	録音-録音の基礎、音声の物理	録音の基礎知識、音源の三要素について、音声の物理についての知識を学ぶ
	2	録音-録音機材	録音機材の名称・用途について学ぶ
	3	録音-スタジオ録音・ロケでの録音	スタジオ録音の実際とロケでの録音の基本的流れを学ぶ
	4	編集-編集とは何か、役割、実際	映像制作における編集とは何か、編集に関する用語やその役割と実際の流れを学ぶ
	5	編集-編集の技法、イマジナリーライン	編集の技法の共通理解知識を学ぶ、イマジナリーラインと180度ルールについて
	6	編集-音によるカッティング・テロップ	音によるカッティングの知識、テロップデザインについて
	7	ポストプロ-ポストプロとは・インターレースとフレームレート	ポストプロダクションについての知識を学ぶ
	8	ポストプロ-モニタリング、カラーコレクション	モニタリング、カラーコレクションの知識を学ぶ
	9	ポストプロ-MA、納品	MultiAudio、納品の流れを学ぶ
	10	関連知識①	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ①
	11	関連知識②	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ②
	12	関連知識③	映像制作の関連知識、業界動向などを学ぶ③
	13	後期期末試験	録音～関連知識までの知識試験
	14	後期振り返り	後期の振り返り
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究概論Ⅱ	指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
年間時間数	28ターム 時間		週時間数 1 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	なし		
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	制作物のコンセプトの考え方について	制作物に対するコンセプトの重要性やコンセプトの立て方を理解する。
	3	A&D大学校キャラクタープレゼン	国際A&D大学校のキャラクターデザインをコンセプトから構築する。コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	4	A&D大学校キャラクタープレゼン大きい鏡面でも保つキャラクターについて	大きい鏡面でも保つでキャラクターイラスト・デザインに必要なことなど解説、東邦銀行ビッグサマーキャンペーンポスター制作
	5	東邦銀行ビッグサマーキャンペーンデザインプレゼン実務紹介	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施。全建総連福島60周年記念誌制作に伴う、周年記念ロゴの制作
	6	周年記念ロゴのプレゼンインスタブローモーションについて	<small>お得意さまへ提出可能なデザインにおいては、確認対応してもらい提出までにブラッシュアップを行う。インスタブローモーションの考え方や、制作を始めるに当たって必要な情報の高と低</small>
	7	父の日POPのプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	8	アイデアを盛り込んだイラストプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	9	インスタブローモーション POP制作<ハロウィン>	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	10	イベントロゴのプレゼン	イベントタイトルロゴを作る※実務実績案件を用いて、タイトル案を提示し、イラレを使用しタイトルロゴを制作する
	11	スノーボード早期販売会チラシデザインプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	12	コンペ制作・ポートフォリオ制作1	ポートフォリオの制作
	13	コンペ制作・ポートフォリオ制作2	ポートフォリオの制作 ブラッシュアップのための添削
	14	まとめ	レポート作成 ブラッシュアップのための添削
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	業界研究概論Ⅱ	指導担当者名	矢田部翔子
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:
年間時間数	28 時間		週時間数 1 時間
学習到達目標	映像制作における基礎知識、用語を理解し適切に使えるようになることを目的とする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	なし		
授業外学習の方法	授業内で提示された課題の自宅学習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	オリエンテーション	授業説明
	2	制作物のコンセプトの考え方について	制作物に対するコンセプトの重要性やコンセプトの立て方を理解する。
	3	A&D大学校キャラクタープレゼン	国際A&D大学校のキャラクターデザインをコンセプトから構築する。コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	4	A&D大学校キャラクタープレゼン大きい誌面でも保つキャラクターについて	大きい誌面でも保つてキャラクター・イラスト・デザインに必要なことなど解説。東邦銀行ビッグサマーキャンペーンポスター制作
	5	東邦銀行ビッグサマーキャンペーンデザインプレゼン実務紹介	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施。全建総連福島60周年記念誌制作に伴う、周年記念ロゴの制作
	6	周年記念ロゴのプレゼンインスタプロモーションについて	<small>お得意様へ提出可能なデザインにおいては、修正対応しても良い提出までにブラッシュアップを行う。インスタプロモーションPOPの考え方や、制作を始めるに当たり必要な情報の集め方</small>
	7	父の日POPのプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	8	アイディアを盛り込んだイラストプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	9	インスタプロモーション POP制作〈ハロウィン〉	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	10	イベントロゴのプレゼン	イベントタイトルロゴを作る※実務実績案件を用いて、タイトル案を提示し、イラストを使用しタイトルロゴを制作する
	11	スノーボード早期販売会チラシデザインプレゼン	コンセプト、デザインについてプレゼンを実施
	12	コンペ制作・ポートフォリオ制作1	ポートフォリオの制作
	13	コンペ制作・ポートフォリオ制作2	ポートフォリオの制作 ブラッシュアップのための添削
	14	まとめ	レポート作成 ブラッシュアップのための添削
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習Ⅱ□		指導担当者名	佐藤 峯
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	short動画説明、撮影、授業説明	
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の説明	
	3	映像について	コンセプトや制作意図について	
	4	映像について	現在の流行、需要のリサーチ	
	5	企画の基礎	マーケティング	
	6	企画の基礎	ブランディング	
	7	企画の基礎	企画書作成	
	8	企画の基礎	企画書作成	
	9	動画制作	動画撮影	
	10	動画制作	動画撮影	
	11	動画制作	動画撮影	
	12	動画制作	動画撮影	
	13	発表	プレゼンテーション	
	14	まとめ	レポート作成	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 				

授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習Ⅱ□		指導担当者名	佐藤峯
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			

学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	オリエンテーション	short動画説明、撮影、授業説明
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の説明
	3	映像について	コンセプトや制作意図について
	4	映像について	現在の流行、需要のリサーチ
	5	企画の基礎	マーケティング
	6	企画の基礎	ブランディング
	7	企画の基礎	企画書作成
	8	企画の基礎	企画書作成
	9	動画制作	動画撮影
	10	動画制作	動画撮影
	11	動画制作	動画撮影
	12	動画制作	動画撮影
	13	発表	プレゼンテーション
	14	まとめ	レポート作成
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	著作権概論	指導担当者名	矢田部 翔子
実務経験	無		
開講時期	前期	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義: ○	演習:	実習: 実技:
年間時間数	28 時間		週時間数 時間
学習到達目標	ビジネス著作権検定BASIC級の合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ビジネス著作権検定 ベーシックテキスト		
授業外学習の方法	テキストの復習等		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	オリエンテーション/第1章 著作権とは何か	試験概要説明/著作権の性質・著作権法の目的
	2	第2章 著作権で保護されるもの①	著作権で保護されるもの
	3	第3章 著作権は誰が持つ	著作者の定義、著作者の例外、著作者と著作権者
	4	第4章 著作権の内容①	著作権の内容 人格権と財産権、著作者人格権(公表権、氏名表示権、同一性保持権、一身専属性)
	5	第4章 著作権の内容②	財産権としての著作権、複製権、上映権、演奏権、上演権
	6	第4章 著作権の内容③	公衆送信権、貸与権、譲渡権、頒布権、二次的著作物
	7	第5章 著作権はいつまで保護される	著作権の始期、著作権の保護期間、国際的保護
	8	第7章 勝手に使える場合がある①	権利制限規定、私的使用関係、付随的著作物
	9	第7章 勝手に使える場合がある②	教育関係、図書館関係、非営利無償の上演・演奏等、引用転載関係
	10	第8章 著作物を伝達する者を保護する制度①	著作隣接権とは
	11	第9章 勝手に使うとどうなるか	著作権の侵害
	12	第10章 著作権に関連する制度	知的財産権、情報モラルと著作権
	13	検定対策	模擬試験
	14	期末試験	検定本番
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作	指導担当者名	パクスフン
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科卒業年次生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180 時間	週時間数	時間
学習到達目標	卒業生: 2, 3年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A, B, Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイヴ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施 			